(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2013-202155
(P2013-202155A)
(43)公開日　平成25年10月7日(2013.10.7)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A47L 13/20	(2006.01)	A47L 13/20	B	3B074

審査請求 未請求　請求項の数 6　ＯＬ　（全 11 頁）

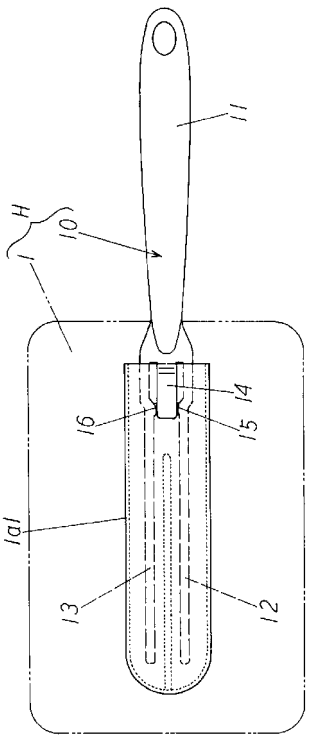
(21)出願番号　特願2012-73058(P2012-73058)
(22)出願日　平成24年3月28日(2012.3.28)

(71)出願人　390020019
レック株式会社
東京都中央区日本橋浜町三丁目１５番１号
(74)代理人　100092680
弁理士　入江　一郎
(72)発明者　勝　又　靖
東京都中央区日本橋浜町三丁目１５番１号
レック株式会社内
(72)発明者　近　藤　伴
東京都中央区日本橋浜町三丁目１５番１号
レック株式会社内

Ｆターム(参考)　3B074 AA02　AA08　AB01　EE01

(54)【発明の名称】ハンディモップ、ハンディモップの払拭体の保持方法及びハンディモップの柄

(57)【要約】　（修正有）
【課題】払拭体を本体から使用中離脱しにくくして使用勝手を向上させたハンディモップを提供する。
【解決手段】ハンディモップHは、回動部材１４の本体１１の取付部位は、第１の棒状部材１２の本体１１の取付部位と第２の棒状部材１３の本体１１の取付部位との間に位置し、受入口に第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３を入れた状態で、回動部材１４を第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３の間に向かって回動させ、第１の張り出し部材１５と第２の張り出し部材１６により、受入部の部材１ａ１を介して第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３の間を押し広げ、第１の張り出し部材１５と第１の棒状部材１２、第２の張り出し部材１６と第２の棒状部材１３により、それぞれ受入部の部材１ａ１を挟持させて、払拭体１を第１の棒状部材１２及び第２の棒状部材１３に保持させる。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
塵や埃等の汚れを拭き取るための払拭体と、
手で握る握り部を有する本体と、
この本体に設けられる棒状の第１の棒状部材と、
この第１の棒状部材に間隔を有して沿うと共に、前記本体に設けられる棒状の第２の棒状部材と、
前記払拭体に設けられ、前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の差し込みを受ける受入口を有する受入部と、
前記本体に回動自在に支持される回動部材と、
この回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第１の棒状部材の側に張り出す第１の張り出し部材と、
前記回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第２の棒状部材の側に張り出す第２の張り出し部材とを有し、
前記回動部材の前記本体の取付部位は、前記第１の棒状部材の前記本体の取付部位と前記第２の棒状部材の前記本体の取付部位との間に位置し、
前記受入口に前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材を入れた状態で、前記回動部材を前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間に向かって回動させ、前記第１の張り出し部材と前記第２の張り出し部材により、前記受入部の部材を介して前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げ、前記第１の張り出し部材と前記第１の棒状部材、前記第２の張り出し部材と前記第２の棒状部材により、それぞれ前記受入部の部材を挟持させて、前記払拭体を前記第１の棒状部材及び第２の棒状部材に保持させる
ことを特徴とするハンディモップ。
【請求項２】
第１の棒状部材と第２の棒状部材が対向する面は、第１の棒状部材の第１の面と第２の棒状部材の第１の面であり、
受入部の部材を介して前記第１の張り出し部材に接触する第１の棒状部材の部位は、前記第１の棒状部材の第１の面より突出する第１の凸部であり、
受入部の部材を介して前記第２の張り出し部材に接触する第２の棒状部材の部位は、前記第２の棒状部材の第１の面より突出する第２の凸部である
ことを特徴とする請求項１記載のハンディモップ。
【請求項３】
回動部材は、ヒンジ部により本体に接続され、
前記回動部材と前記ヒンジ部と前記本体は、同一の合成樹脂で形成され、
前記回動部材の前記ヒンジ部に近い側の端部に突起が設けられ、
受入部に第１の棒状部材と第２の棒状部材を入れた状態で、前記回動部材を第１の棒状部材と第２の棒状部材の間に向かって回動させ、第１の張り出し部材と第２の張り出し部材により、前記受入部の部材を介して前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げ、前記第１の張り出し部材と前記第１の棒状部材、前記第２の張り出し部材と前記第２の棒状部材により、それぞれ前記受入部の部材を挟持させると共に、前記突起が払拭体に食い込む
ことを特徴とする請求項１記載のハンディモップ。
【請求項４】
塵や埃等の汚れを拭き取るための払拭体と、
手で握る握り部を有する本体と、
この本体に設けられる棒状の第１の棒状部材と、
この第１の棒状部材に間隔を有して沿うと共に、前記本体に設けられる棒状の第２の棒状部材と、
前記払拭体に設けられ、前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の差し込みを受ける受入口を有する受入部と、

前記本体に回動自在に支持される回動部材と、
この回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第１の棒状部材の側に張り出す第１の張り出し部材と、
前記回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第２の棒状部材の側に張り出す第２の張り出し部材とを有し、
前記回動部材の前記本体の取付部位は、前記第１の棒状部材の前記本体の取付部位と前記第２の棒状部材の前記本体の取付部位との間に位置したハンディモップであって、
前記受入口に前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材を入れた状態で、前記回動部材を前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間に向かって回動させ、前記第１の張り出し部材と前記第２の張り出し部材により、前記受入部の部材を介して前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げ、前記第１の張り出し部材と前記第１の棒状部材、前記第２の張り出し部材と前記第２の棒状部材により、それぞれ前記受入部の部材を挟持させて、前記払拭体を前記第１の棒状部材及び第２の棒状部材に保持させる
ことを特徴とするハンディモップの払拭体の保持方法。
【請求項５】
手で握る握り部を有する本体と、
この本体に設けられ、払拭体の受入口に差し込む棒状の第１の棒状部材と、
この第１の棒状部材に間隔を有して沿うと共に、前記本体に設けられ、前記払拭体の受入口に差し込む棒状の第２の棒状部材と、
前記本体に回動自在に支持された回動部材と、
この回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第１の棒状部材の側に張り出す第１の張り出し部材と、
前記回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第２の棒状部材の側に張り出す第２の張り出し部材とを有し、
前記回動部材の前記本体の取付部位は、前記第１の棒状部材の前記本体の取付部位と前記第２の棒状部材の前記本体の取付部位との間に位置し、
前記回動部材を前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間に向かって回動させ、前記第１の張り出し部材と前記第２の張り出し部材により、前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げるものである
ことを特徴とするハンディモップの柄。
【請求項６】
回動部材は、ヒンジ部により本体に接続され、
前記回動部材と前記ヒンジ部と前記本体は、同一の合成樹脂で形成され、
前記回動部材の前記ヒンジ部に近い側の端部に突起が設けられている
ことを特徴とする請求項５記載のハンディモップの柄。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ハンディモップ、ハンディモップの払拭体の保持方法及びハンディモップの柄に係り、特に、払拭体を握り部から使用中離脱しにくくして使用勝手を向上させたハンディモップ、ハンディモップの払拭体の保持方法及びハンディモップの柄に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来のハンディモップは、例えば、ゴミや埃を付着させるためのモップ本体と、このモップ本体を取り付けるための把手とを備えたものであって、前記モップ本体は２本の平行な取付け用の隙間を有し、前記把手は偏平で水平な２本の差込板を根元から二股状に有する取付け部と、その取付け部の根元から後上方へ延びる把持部と、取付け部の根元から２本の差込板の間に突き出る押さえ板と、押さえ板の先端を上向きに傾斜するとともに、裏面に引っ掛け部分とで構成され、モップ本体の取付け用の隙間に把手の取付け部における差込板を挿入し、モップ本体を二股状に有する取付け部と押さえ板とで挟持し、押さえ

板の裏面の引っ掛け部分によりモップ本体を把手に保持させるようにしている（例えば、特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００５－２３０５７６号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところが、上記ハンディモップにあっては、モップ本体を二股状に有する取付け部と押さえ板とで挟持し、押さえ板の裏面の引っ掛け部分によりモップ本体を保持していても、使用中、把手かモップ本体が離脱し使用勝手が良好でないという問題点が生じた。
【０００５】
本発明は、前記問題点を考慮したなされたハンディモップ、ハンディモップの払拭体の保持方法及びハンディモップの柄を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
請求項１記載のハンディモップは、塵や埃等の汚れを拭き取るための払拭体と、手で握る握り部を有する本体と、この本体に設けられる棒状の第１の棒状部材と、この第１の棒状部材に間隔を有して沿うと共に、前記本体に設けられる棒状の第２の棒状部材と、前記払拭体に設けられ、前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の差し込みを受けれる受入口を有する受入部と、前記本体に回動自在に支持される回動部材と、この回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第１の棒状部材の側に張り出す第１の張り出し部材と、前記回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第２の棒状部材の側に張り出す第２の張り出し部材とを有し、前記回動部材の前記本体の取付部位は、前記第１の棒状部材の前記本体の取付部位と前記第２の棒状部材の前記本体の取付部位との間に位置し、前記受入口に前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材を入れた状態で、前記回動部材を前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間に向かって回動させ、前記第１の張り出し部材と前記第２の張り出し部材により、前記受入部の部材を介して前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げ、前記第１の張り出し部材と前記第１の棒状部材、前記第２の張り出し部材と前記第２の棒状部材により、それぞれ前記受入部の部材を挟持させて、前記払拭体を前記第１の棒状部材及び第２の棒状部材に保持させるものである。
【０００７】
また、請求項２記載のハンディモップは、請求項１記載のハンディモップにおいて、第１の棒状部材と第２の棒状部材が対向する面は、第１の棒状部材の第１の面と第２の棒状部材の第１の面であり、受入部の部材を介して前記第１の張り出し部材に接触する第１の棒状部材の部位は、前記第１の棒状部材の第１の面より突出する第１の凸部であり、受入部の部材を介して前記第２の張り出し部材に接触する第２の棒状部材の部位は、前記第２の棒状部材の第１の面より突出する第２の凸部である。
【０００８】
また、請求項３記載のハンディモップは、請求項１記載のハンディモップにおいて、回動部材は、ヒンジ部により本体に接続され、前記回動部材と前記ヒンジ部と前記本体は、同一の合成樹脂で形成され、前記回動部材の前記ヒンジ部に近い側の端部に突起が設けられ、受入部に第１の棒状部材と第２の棒状部材を入れた状態で、前記回動部材を第１の棒状部材と第２の棒状部材の間に向かって回動させ、第１の張り出し部材と第２の張り出し部材により、前記受入部の部材を介して前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げ、前記第１の張り出し部材と前記第１の棒状部材、前記第２の張り出し部材と前記第２の棒状部材により、それぞれ前記受入部の部材を挟持させると共に、前記突起が払拭体に食い込むものである。
【０００９】

また、請求項４記載のハンディモップの払拭体の保持方法は、塵や埃等の汚れを拭き取るための払拭体と、手で握る握り部を有する本体と、この本体に設けられる棒状の第１の棒状部材と、この第１の棒状部材に間隔を有して沿うと共に、前記本体に設けられる棒状の第２の棒状部材と、前記払拭体に設けられ、前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の差し込みを受けれる受入口を有する受入部と、前記本体に回動自在に支持される回動部材と、この回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第１の棒状部材の側に張り出す第１の張り出し部材と、前記回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第２の棒状部材の側に張り出す第２の張り出し部材とを有し、前記回動部材の前記本体の取付部位は、前記第１の棒状部材の前記本体の取付部位と前記第２の棒状部材の前記本体の取付部位との間に位置したハンディモップであって、前記受入口に前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材を入れた状態で、前記回動部材を前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間に向かって回動させ、前記第１の張り出し部材と前記第２の張り出し部材により、前記受入部の部材を介して前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げ、前記第１の張り出し部材と前記第１の棒状部材、前記第２の張り出し部材と前記第２の棒状部材により、それぞれ前記受入部の部材を挟持させて、前記払拭体を前記第１の棒状部材及び第２の棒状部材に保持させるものである。

【００１０】

また、請求項５記載のハンディモップの柄は、手で握る握り部を有する本体と、この本体に設けられ、払拭体の受入口に差し込む棒状の第１の棒状部材と、この第１の棒状部材に間隔を有して沿うと共に、前記本体に設けられ、前記払拭体の受入口に差し込む棒状の第２の棒状部材と、前記本体に回動自在に支持された回動部材と、この回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第１の棒状部材の側に張り出す第１の張り出し部材と、前記回動部材に設けられ、前記回動部材の前記第２の棒状部材の側に張り出す第２の張り出し部材とを有し、前記回動部材の前記本体の取付部位は、前記第１の棒状部材の前記本体の取付部位と前記第２の棒状部材の前記本体の取付部位との間に位置し、前記回動部材を前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間に向かって回動させ、前記第１の張り出し部材と前記第２の張り出し部材により、前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げるものである。

【００１１】

また、請求項６記載のハンディモップの柄は、請求項５記載のハンディモップの柄において、回動部材は、ヒンジ部により本体に接続され、前記回動部材と前記ヒンジ部と前記本体は、同一の合成樹脂で形成され、前記回動部材の前記ヒンジ部に近い側の端部に突起が設けられているものである。

【発明の効果】

【００１２】

請求項１記載のハンディモップによれば、払拭体の受入口に第１の棒状部材と第２の棒状部材を入れた状態で、回動部材を前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間に向かって回動させ、第１の張り出し部材と第２の張り出し部材により、前記受入部の部材を介して前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げ、前記第１の張り出し部材と前記第１の棒状部材、前記第２の張り出し部材と前記第２の棒状部材により、それぞれ前記受入部の部材を挟持させて、前記払拭体を前記第１の棒状部材及び第２の棒状部材に保持させるため、第１の棒状部材と第２の棒状部材が元に戻ろうとする弾性力を利用して、払拭体が使用中第１の棒状部材及び第２の棒状部材から離脱しにくく、使用勝手を向上させることができる。

【００１３】

また、請求項２記載のハンディモップによれば、上述した請求項１記載の発明の効果に加え、受入部の部材を介して第１の張り出し部材に接触する第１の棒状部材の部位は、前記第１の棒状部材の第１の面より突出する第１の凸部であり、受入部の部材を介して第２の張り出し部材に接触する第２の棒状部材の部位は、前記第２の棒状部材の第１の面より突出する第２の凸部であるため、突出する凸部の分、第１の棒状部材及び第２の棒状部

材の材料費を安く抑えることができる。
【００１４】
また、請求項３記載のハンディモップによれば、上述した請求項１記載の発明の効果に加え、回動部材を介して払拭体を本体に装着した場合、回動部材の突起が払拭体の受入部の部材に食い込むため、払拭体が使用中本体からより離脱しにくく、使用勝手を向上させることができる。
【００１５】
また、請求項４記載のハンディモップの払拭体の保持方法によれば、払拭体の受入口に第１の棒状部材と第２の棒状部材を入れた状態で、回動部材を前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間に向かって回動させ、第１の張り出し部材と第２の張り出し部材により、前記受入部の部材を介して前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げ、前記第１の張り出し部材と前記第１の棒状部材、前記第２の張り出し部材と前記第２の棒状部材により、それぞれ前記受入部の部材を挟持させて、前記払拭体を前記第１の棒状部材及び第２の棒状部材に保持させるため、第１の棒状部材と第２の棒状部材が元に戻ろうとする弾性力を利用して、払拭体が使用中第１の棒状部材及び第２の棒状部材から離脱しにくく、使用勝手を向上させることができる。
【００１６】
また、請求項５記載のハンディモップの柄によれば、払拭体の受入口に第１の棒状部材と第２の棒状部材を入れた状態で、回動部材を前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間に向かって回動させ、第１の張り出し部材と第２の張り出し部材により、前記受入部の部材を介して前記第１の棒状部材と前記第２の棒状部材の間を押し広げ、前記第１の張り出し部材と前記第１の棒状部材、前記第２の張り出し部材と前記第２の棒状部材により、それぞれ前記受入部の部材を挟持させて、前記払拭体を前記第１の棒状部材及び第２の棒状部材に保持させるため、第１の棒状部材と第２の棒状部材が元に戻ろうとする弾性力を利用して、払拭体が使用中第１の棒状部材及び第２の棒状部材から離脱しにくく、使用勝手を向上させることができる。
【００１７】
また、請求項６記載のハンディモップの柄によれば、上述した請求項５記載の発明の効果に加え、回動部材を介して払拭体を本体に装着した場合、回動部材の突起が払拭体の受入部の部材に食い込むため、払拭体が使用中本体からより離脱しにくく、使用勝手を向上させることができる。
【図面の簡単な説明】
【００１８】
【図１】図１は、本発明の一実施例のハンディモップの概略的平面図である。
【図２】図２は、図１の概略的正面図である。
【図３】図３は、図１のハンディモップの柄の概略的一部平面図である。
【図４】図４は、図３のハンディモップの柄の概略的一部正断面図である。
【図５】図５は、図３の回動部材を第１の棒状部材と第２の棒状部材との間に回動させ、第１の張り出し部材を第１の棒状部材の対向面より突出する凸部に、第２の張り出し部材を第２の棒状部材の対向面より突出する凸部に、それぞれ係合させた状態の概略的平面図である。
【図６】図６は、図１の払拭体の概略的平面図である。
【図７】図７は、図６の７－７線による概略的断面図である。
【図８】図８は、図６の８－８線による概略的断面図である。
【図９】図９は、図３のハンディモップの柄を図６の払拭体に差し込む状態の概略的斜視図である。
【図１０】図１０は、図９のハンディモップの柄を払拭体に差し込んだ状態の概略的一部正断面図である。
【図１１】図１１は、図１０の概略的平面図である。
【図１２】図１２は、図１０の回動部材を第１の棒状部材と第２の棒状部材との間に回動

させ、第１の張り出し部材を第１の棒状部材の対向面より突出する凸部に、第２の張り出し部材を第２の棒状部材の対向面より突出する凸部に、それぞれ係合させた状態の概略的一部正断面図である。
【図１３】図１３は、図１２の概略的平面図である。
【図１４】図１４は、図１３の１４－１４線による概略的断面図である。
【図１５】図１５は、図１３の１５－１５線による概略的断面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１９】
本発明の一実施例のハンディモップ、ハンディモップの払拭体の保持方法及びハンディモップの柄を図面（図１乃至図１５）を参照して説明する。
図１及び図２に示すＨはハンディモップで、ハンディモップＨは、払拭体１と、この払拭体１を支持するハンディモップの柄１０とから、概略的に構成されている。
【００２０】
払拭体１は、塵や埃等の汚れを拭き取るためのもので、後述する第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３の差し込みを受けれる受入口１ａを有する受入部の部材１ａ１に、例えば、短繊維を撚って形成した細い紡績糸を複数本撚り合わせて得られる太いモップ糸を複数本房状に取り付けたもの、又は、毛羽立った合成樹脂製の不織布を束ねられたもの等を取り付けて形成する。
なお、受入部の部材１ａ１は、袋状に形成され、表側部材と裏側部材とを略中央の長手方向に沿って溶着等して結合している。溶着等により結合されている部位は、図６及び図８に示すＸである。
【００２１】
ハンディモップの柄１０は、例えば、ＡＢＳ樹脂、ＰＰ樹脂などの合成樹脂で後述する第１の棒状部材１２、第２の棒状部材１３及び回動部材１４等と共に、一体成形され、手で握る握り部を有する本体１１と、この本体１１に設けられ（例えば、本体１１に一体的に設けられ）、払拭体１の受入部１ａに差し込む長手方向に長い棒状の第１の棒状部材１２と、この第１の棒状部材１２に間隔を有して沿うと共に、本体１１に設けられ（例えば、本体１１に一体的に設けられ）、払拭体１の受入部１ａに差し込む長手方向に長い棒状の第２の棒状部材１３と、本体１１に回動自在に支持された回動部材１４と、この回動部材１４に設けられ、回動部材１４の第１の棒状部材１２の側に張り出す第１の張り出し部材１５と、回動部材１４に設けられ、回動部材１４の第２の棒状部材１３の側に張り出す第２の張り出し部材１６とを有している。
そして、図３に示すように、回動部材１４の本体１１の取付部位Ａは、第１の棒状部材１２の本体１１の取付部位Ｂと第２の棒状部材１３の本体１１の取付部位Ｃとの間に位置している。
また、図４に示すように、回動部材１４のヒンジ部ｈに近い側の端部に突起１４Ａが設けられている。
なお、第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３が対向する面は、図３及び図１３に示すように、第１の棒状部材１２の第１の面１２Ａと第２の棒状部材１３の第１の面１３Ａであり、また、図１４に示すように、受入部の部材１ａ１を介して第１の張り出し部材１５に接触する第１の棒状部材１２の部位は、第１の棒状部材１２の第１の面１２Ａより突出する第１の凸１２Ａ１であり、また、受入部の部材１ａ１を介して第２の張り出し部材１６に接触する第２の棒状部材１３の部位は、第２の棒状部材１３の第１の面１３Ａより突出する第２の凸部１３Ａ１である。突出する第１の凸１２Ａ１、第２の凸部１３Ａ１の分、第１の棒状部材１２及び第２の棒状部材１３の材料費を安く抑えることができる。
なお、場合により、第１の凸部１２Ａ１を第１の張り出し部材１２の第１の面１２Ａと同面、第２の凸部１３Ａ１を第２の張り出し部材１３の第１の面１３Ａと同面、としても良い。
【００２２】
従って、図９に示すように、払拭体１の受入部１ａに第１の棒状部材１２と第２の棒

状部材１３を入れ、払拭体１に第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３を入れた状態（図１０及び図１１参照）で、回動部材１４を第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３の間に向かって回動させ（図１０に示す矢印方向に回動）、第１の張り出し部材１５と第２の張り出し部材１６により、受入部の部材１ａ１を介して第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３の間を押し広げ、第１の張り出し部材１５と第１の棒状部材１２、第２の張り出し部材１６と第２の棒状部材１３により、それぞれ受入部の部材１ａ１を挟持させて、払拭体１を第１の棒状部材１２及び第２の棒状部材１３に保持させることができる（図１２乃至図１４参照）。

また、図１２及び図１５に示すように、回動部材１４の突起１４Aが払拭体１の受入部の部材１ａ１に食い込むため、払拭体１が使用中本体１１からより離脱しにくく、使用勝手を向上させることができる。

【００２３】

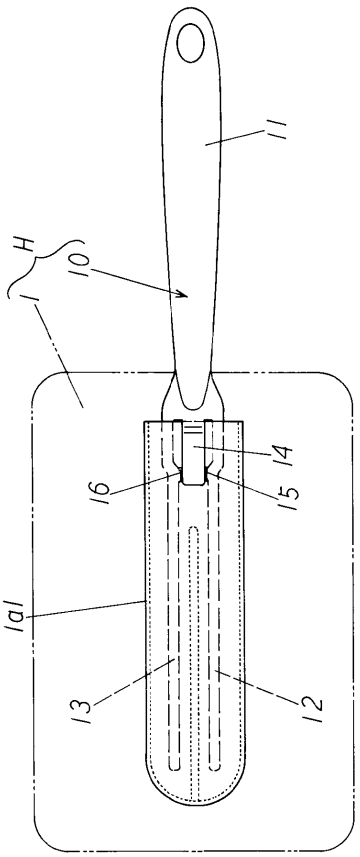
その結果、上述のハンディモップH（ハンディモップの払拭体の保持方法）によれば、払拭体１の受入口１ａに第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３を入れた状態で、回動部材１４を第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３の間に向かって回動させ、第１の張り出し部材１５と第２の張り出し部材１６により、受入部の部材１ａ１を介して第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３の間を押し広げ、第１の張り出し部材１５と第１の棒状部材１２、第２の張り出し部材１６と第２の棒状部材１３により、それぞれ受入部の部材１ａ１を挟持させて、払拭体１を第１の棒状部材１２及び第２の棒状部材１３に保持させるため、第１の棒状部材１２と第２の棒状部材１３が元に戻ろうとする弾性力を利用して、払拭体１が使用中第１の棒状部材１２及び第２の棒状部材１３から離脱しにくく、使用勝手を向上させることができる。

【符号の説明】

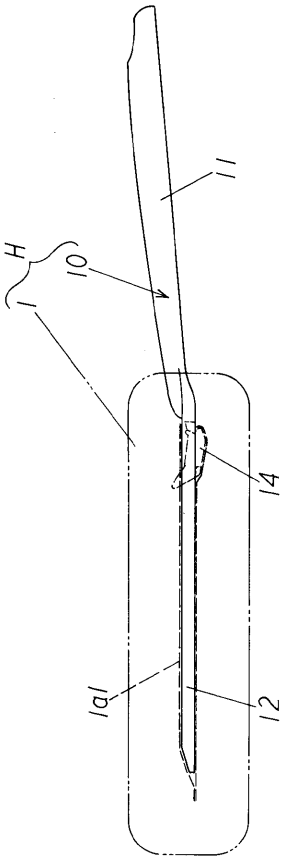
【００２４】

H　ハンディモップ
１　払拭体
１ａ　受入口
１ａ１　受入部の部材
１１　本体
１２　第１の棒状部材
１３　第２の棒状部材
１４　回動部材
１５　第１の張り出し部材
１６　第２の張り出し部材
A　取付部位
B　取付部位
C　取付部位

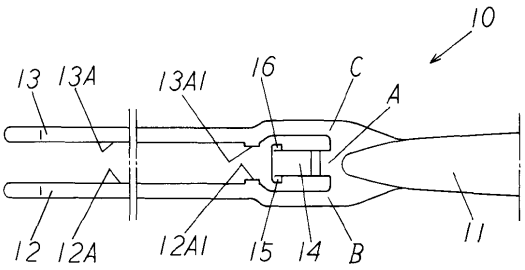
【図１】



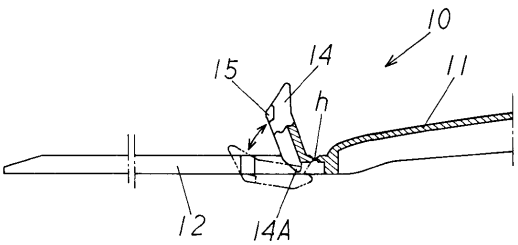
【図２】



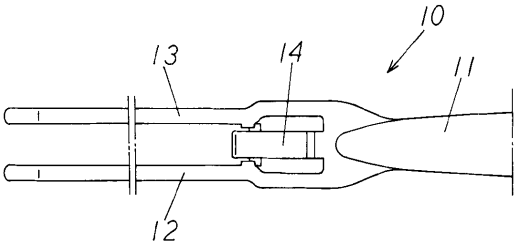
【図３】



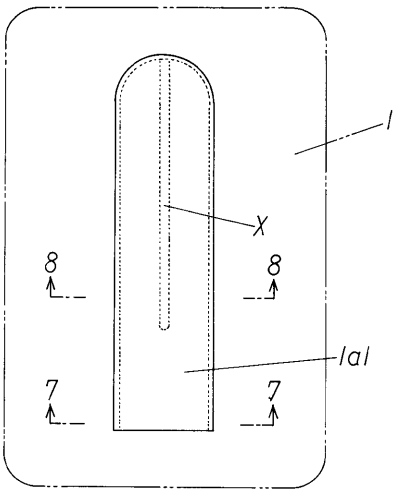
【図４】



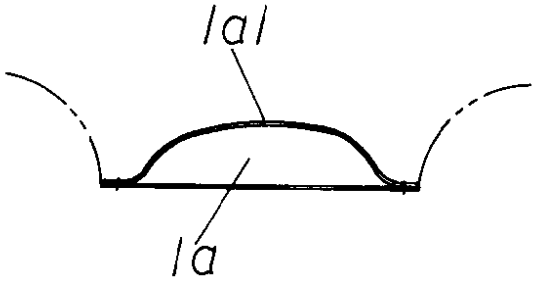
【図５】



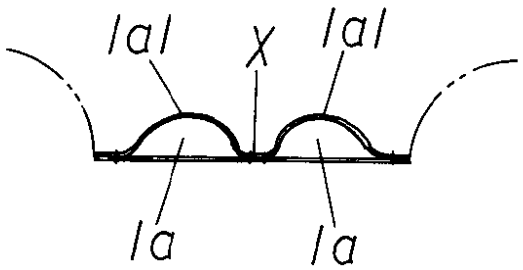
【図６】



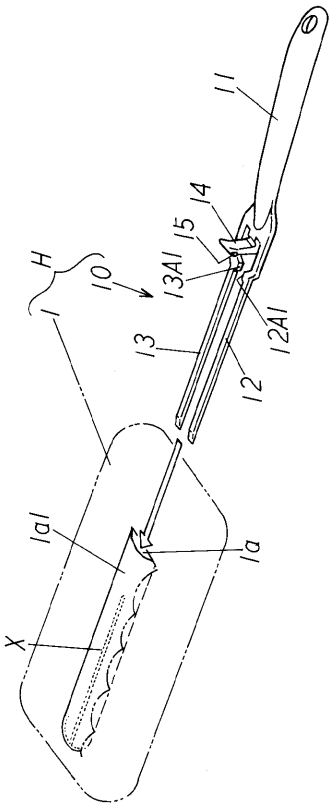
【図７】



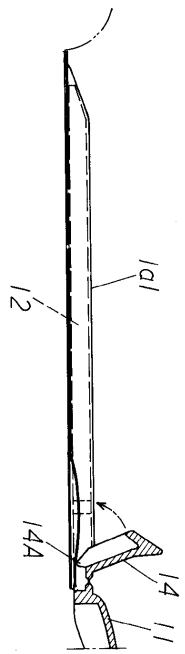
【図８】


1a1
X
1a1
1a
1a

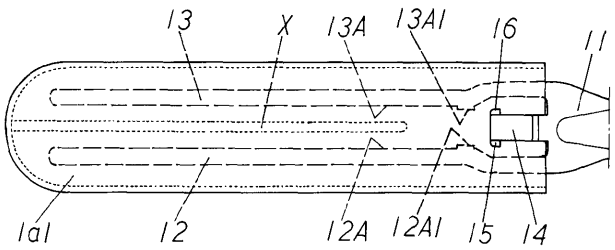
【図９】


11
14
15
H
10
13A1
1
13
12A1
12
1a1
1a
X

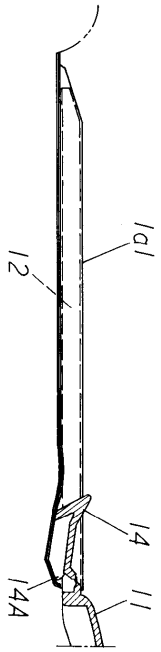
【図１０】


12
1a1
14A
14
11

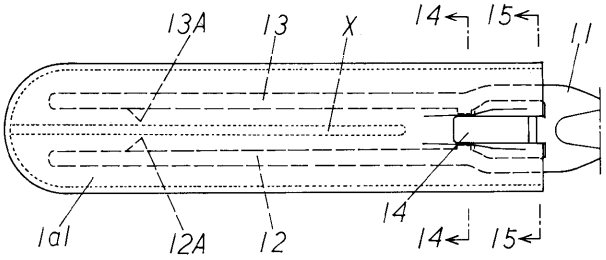
【図１１】


13
X
13A
13A1
16
11
1a1
12
12A
12A1
15
14

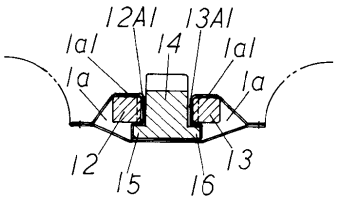
【図１２】



【図１３】



【図１４】



【図１５】

